

Dear

New

Friend

Asaya Sawazaki

登場人物

日吉大地…劇団座長、脚本、演出家
北見誠二…舞台監督

堀田真綾…制作担当
井草京香…照明担当

保土ヶ谷卓夫…別の劇団の俳優

荒巻真理子…劇場小屋主

劇場を下見している日吉と北見、京香。

京香は携帯のカメラで天井（照明機材）を撮っている。

北見はメジャーをもって寸法を計っている。それを見ながら、セットのイメージを固めている日吉。

北見 結構興行きはあるな。

日吉 ソファースセットは置けそうか？

北見 大丈夫だろ。

日吉 で、テレビがこっちだな。

北見 ああ。

京香 （北見に）ねえ脚立ってどこかな？

北見 裏にあったよ。

日吉 でき、ここに扉をつけたいんだ。

京香 借りてもいいよね。

日吉 やっぱりこつち側に開く扉だよな、裏の導線狭そうだな。

北見 俺が持ってきてやるよ。

京香 大丈夫だよ。

北見 重いからさ。女の子じゃ怪我しちゃうぜ。

京香 北見君、やさしい！

日吉 でもさ、こつちからお盆持って出てくるシーンがあるじゃん。

北見

持ってくるよ。

日吉

いや、舞台監督が持ってきてどうすんだよ。

京香

あ、あたしも一緒に行く。

北見

じゃあ一緒に行こうか。

日吉

ブタカンが一緒に行っちゃダメだろ。本番中の話しだぜ。

京香

重かったら言ってるね。

北見

大丈夫だって。

二人、出ていく。

日吉

大丈夫とかじゃなくてさ、お盆持って出てくるのに扉があつたら邪魔じゃん。裏で誰か介錯とかしてくれるならいいけどさあ。見切れたくないじゃん、なあ。

そう言いながら振り向くと、誰もいない。

日吉

俺、今まで誰と喋ってたんだ…こわ…

真綾が入ってくる。

真綾

日吉くん。契約書貰ってきたよ。

日吉 (ほっとして) 人がいたあ…

真綾 どしたの？

日吉 真綾、気をつける。

真綾 なに？

日吉 この劇場には、いるぞ。

真綾 何が？

日吉 何がつて、分かるだろ。劇場には、ほら…

真綾 幽霊？

日吉 軽く言うねえ…

真綾 いないよ。

日吉 と、思うだろ。でもさ、聞いて驚くな。俺はさつき、話をした。

真綾 誰と？

日吉 だから、

真綾 幽霊？

日吉 軽く言うねえ…

真綾 ここにはいないよ、大丈夫だよ。

日吉 なんて、そんなこと分かるんだよ。

真綾 あたし靈感あるし。

日吉 嘘っ… 初耳なんだけど。

真綾 言つても信じないでしょ。そもそも自分から言うことじゃないし。

日吉

見えるってさ、どれくらい？

真綾

どれくらい？ いやだから、別に普通に。ほら、ウチってお母さんもおばあちゃんの見える体質じゃん。

日吉

しらねーよ。

真綾

ちなみに、昨日下見した劇場だけど、あそこには三人いた。

日吉

本気で言ってる？

真綾

笑ったのはさあ、日吉くんが「ここに扉」とかってやってたじゃん。

そう言いながら、両手を前に出し、扉の幅に広げる。

真綾

この両手の間にいたから。

日吉

マジかよー！

真綾

すごい困った顔してたよ。幽霊さん。

日吉

幽霊にさん付けするなよ。

真綾

女の子だったし、そのまま抱きしめちゃえば良かったのに。

日吉

良くねーよ！ 決めた、昨日の劇場は使わねえ。ここにする。ここにはいないんだよな？

真綾

(周りを見回して) いないね。出来たばっかりの小屋だし。

日吉

ここ予約しよう。

真綾

っていうと思った。じゃあこれに記入して。

真綾、予約用紙を渡す。

真綾　小屋主の荒巻さん呼んでくるね。契約を決めましたって。
日吉　ああ。

日吉、用紙に記入し始める。

そこへ、保土ヶ谷卓夫が入ってくる。

日吉、記入に集中していて気づかない。

保土ヶ谷、日吉に声をかけるわけでもなく、舞台を歩き回って、しばらくしてベッドに座る。

しばし、無言…

保土ヶ谷　いい劇場ですね。

日吉　（驚いて）わおっ！

保土ヶ谷　すいません、驚かせちゃいました？

日吉　劇場の方？

保土ヶ谷　下見です。

日吉　あ、僕らだけじゃなかったんだ。

保土ヶ谷　契約書ですか？

日吉　はい。

保土ヶ谷　ふうん…　ここに決めたんですか？

日吉 ええ。いい劇場ですよ、ここ。

保土ヶ谷 ですよ。広いし、キャパもいい感じ。ひな壇もあつて全部の席が見やすそうだし、狭くもない。

日吉 そしてお化けもいない。

保土ヶ谷 お化け？

日吉 あ、いえ(笑) ほら劇場にはいるって言うでしょ？

保土ヶ谷 幽霊？

日吉 そうそう。

保土ヶ谷 ここにはいないでしょ、出来たばかりだし。

日吉 さつきも同じこと言われました。やっぱり大事な要因ですよ。

保土ヶ谷 ですよ。

日吉 (周りを見て) ひとりで下見ですか？

保土ヶ谷 ちよつと早く着きすぎまして。

日吉 やつぱり。下見は三十分にしてって言われてたんです。次が来るからって。

保土ヶ谷 契約書を書いてるってことは、座長さんですか？

日吉 はい。日吉って言います。ええと…

保土ヶ谷 保土ヶ谷です。

日吉 保土ヶ谷さん。座長さん？

保土ヶ谷 役者です。

日吉 へえ、主役つすか？

保土ヶ谷 (照れながら) うちの劇団人数少ないので、まあ主役もやったりしますけど…

日吉　　うちは、役者が弱くて。主役なんか任せられる力がない奴ばかりなんですよ。

そこへ、真綾が戻ってくる。

真綾　荒巻さん、ずっと電話してる。

日吉　　あ、紹介しとくよ、この劇場の次の下見予約してた劇団の役者さんで、保土ヶ谷さん。

真綾　　あ、どうも。劇団熱風ハリケーンの制作やってます堀田真綾です。

保土ヶ谷　熱風ハリケーン…　なんか聞いたことがあります。

真綾　　旗揚げして二年目のペーペー劇団ですよ。

保土ヶ谷　劇団員さんは何人くらいいるんですか？

日吉　　十人位？

真綾　　だね。

保土ヶ谷　すごいですね、ウチなんか四人ですよ、あ、一人減ったから今三人か…

真綾　　役者さんですか？

日吉　　主役だったさ。

真綾　　すごい。

保土ヶ谷　全然。僕なんか役者向きじゃないんです。存在感ないですし。

日吉　　そうかなあ。

保土ヶ谷　昔、先輩に言われました。主役には存在感が必要だって。

真綾　　確かに、周りの役者に食われちゃう主役って悲惨ですけどねえ。

保土ヶ谷 主役って、入ってきた瞬間、空気が変わるくらいのオーラみたいなものが必要だと思うんです。

日吉 でもそういうのは、年齢や経験もあるし。

保土ヶ谷 僕は今日、キセルしてきました。

日吉 いきなり何のカミングアウト？

保土ヶ谷 自動改札でタッチしないで入りました。

日吉 良くはないけど、ラッキーじゃん。

保土ヶ谷 自動改札にもスルーされるくらい存在感ないってことです…

真綾 多分壊れてたんじゃない？

保土ヶ谷 駅員さんが目の前にいたのに？

真綾 じゃあ考え、ことでもしてたとか。

保土ヶ谷 電車の座席に座ってたら、知らない人に僕の膝の上に座られました…

日吉 カップルだってそんなことしねえよな。

保土ヶ谷 この場所が分からなくて、道を聞こうとしたら六人に無視されたんです。

真綾 ま、ここは、わかりづらいし… ねえ？

日吉 あ、ああ…

保土ヶ谷 みんな僕を相手にしてくれません。

真綾 悲観的にならないで。

保土ヶ谷 役者なんか向いてないんです…

日吉 でも、おたくの座長さんは、認めてくれてるわけでしょ？ だから主役になったわけだし。

保土ヶ谷 僕達の旗揚げ公演のタイトル「お地藏様」っていうんですけど…

日吉 地味なタイトルだなあ。

保土ヶ谷 僕は地蔵役でした。舞台の真ん中でずっと立っているだけで…

真綾 主役なんでしょ？

保土ヶ谷 はい。セリフはありませんでしたけど… 二作目は「墓参り」って言うタイトルで。

日吉 分かった、墓石の役とか。

保土ヶ谷 よく知ってますね？ 見たんですか？

日吉 そんなタイトルの芝居見たくないよ。

保土ヶ谷 次が「三途の川」で川の役、その次が「灯籠流し」で灯籠の役…

真綾 なんかも暗い話ばかりね。

保土ヶ谷 座長のポリシーです。

日吉 まあ、そういう劇団があってもいいけど…

保土ヶ谷 次が「墓参り」の再演で…

日吉 人気あったんだ…

保土ヶ谷 で、今回ここで演る予定なのが「お地蔵様Ⅱ」です。

日吉 続編かい。

真綾 あの、悪いんだけど… 多分、それ、主役じゃないと思う…

保土ヶ谷 …

間…

保土ヶ谷 楽屋見てきます…

真綾 あ、下手の奥にあります。

保土ヶ谷 どうも…

保土ヶ谷、出て行く。

日吉 ショック受けてたな。

真綾 あたし？

日吉 そりゃそうだろ、主役じゃないと思うなんて核心言うから。

真綾 だってそうじゃない。地藏役とか、墓石の役とか、そもそも川の役ってどうやるのよ。

日吉 横たわって、ザワザワとかかって言ってるんだろ。

真綾 なんかも暗い感じだしさ、芝居もうまそうじゃなかったし、セリフ任せられないからああいう役しかもらえないのよ、きつと。

日吉 なんだかなあ…俺だったらもうちよつと面白く使つてやるのになあ。

そこへ、北見と京香がイチャつきながら出て来る。

二人して仲良く脚立を持つてくる。

京香 (照明を見ながら) ニニ、ニニ。

北見 ようし、立てちゃうぞー

北見、脚立を立てる。

京香　じゃあ昇るから、ちゃんとおさえててね。

北見　任せとけー！

京香、脚立に乗って、照明をチェックする。

北見　気をつけて、気をつけてー

京香　大丈夫だってばあー

そんな二人をシラけた目で見つめる日吉と真綾。

下手から、保土ヶ谷が出てくる。

保土ヶ谷　あつち（上手側）も見てきていいですかね？

真綾　いいと思いますよ、あ、上手の奥に事務所があるから、小家主さんに挨拶しといたほうがいいかも。

保土ヶ谷　僕に気づいてくれますかね？

真綾　そこまで影薄くないでしょ。

保土ヶ谷　だといいですけど…

保土ヶ谷、上手に入っていく。
入れ違いに真理子が入ってくる。

真理子

日吉

ごめんなさいねーお待たせしちやつて！
あ、いえ。

真理子

電話かけたりかかってきたりで、もう大変。明日からここに入る劇団がね、地方から来るのよ、だからあたしが代わりにチケット売ってるの。こけら落としだからガラガラじゃ嫌でしょ。もう大変よ。ほんと。ねえチケット買ってくれない？

日吉

そうですねえ…

脚立から下りてくる京香。片付ける北見。

真理子

日吉

あ、そう言えば、予約してくれたんですってー！
よろしくお願いします。

真理子

初めての契約よー！
ホントですか？

真理子

真綾

明日が正式オープンでしょ、まだ知名度も何もないもの、ここ。
でもいい劇場ですから、すぐ一杯になると思いますよ。

真理子

あたしもそう思う。だってあたし、ズーっと自分の劇場欲しかったのよ。子役でデビューしてき、天才って言われて、映画と舞台を掛け持ちで出演とかしちやつて、婚約破棄を二回して、もう男なんかいらんからいつか自分の劇場を持

つんだってというのが夢でここまで頑張ってきたからね。キャパが150。ちょっと当初の予定より狭いけど、でもここは私のお城だよ。苦勞したもんなあ。普通に役者だけやってればいいのにさ、婚約破棄を二回して、もう男なんかいらないうちで、貯金はたいて借金までしてよくやったよね、自分で自分褒めちやうけどさ。

婚約破棄はまだこだわってるんですね。

日吉

あたしはね、この劇場と結婚したの。だから男なんか、向こうから誘ってこない限りは相手にしないの。

真綾

(日吉に小声で) 誘ってきたら乗るんだ…

日吉

いいから。

真理子

で、どんなお芝居やるのかしら？

真理子、契約書を見て、

真理子

タイトルが… 音楽劇「ハムレット」。ふうん、シエークスピアね。

日吉

はい、ハムレットを現代風にして…

真理子

シエークスピアはね、あたし三回出たことあるわよ。ちなみに、ロミジュリのね、ジュリエット。最終選考まで残ったから！

真綾

(小声で) 出てはいないと…

いきなり、京香たちを振り返って、

真理子

はいそこ！ イチャイチャしない！

北見 ……すみません…

真理子 ったく、最近の若い子は、すぐイチャイチャする。ここは神聖な舞台よ。いい？ 役者たるもの、一步舞台に上がっ

たら、素の自分は消しなさい。

あたしたち、役者じゃないんですけど。

うるさい。

真理子

(契約書を見て) 音楽劇ってのは、ミュージカルってこと？

いや、ミュージカルでは…

歌ってみなさい。

え？

真理子

あたしの前で歌えるものなら歌ってみなさい。
でも今日、役者いねえしなあ。

北見

イチャイチャ言うな。
ごちやごちやじゃないの？

真理子

(京香に) じゃあ、あんた。歌ってみなさい。
え？

京香

まあ、確かに、この中じゃ一番上手いかもな。
嘘でしょ？あたし照明なんだけど…

真理子

関係ないっ！ じゃあ、簡単な歌、「花」歌ってみなさい。
花？

真理子

知らない？ 天才、滝廉太郎の、あの名曲、「花」よ。

京香 ♪さいたーさいたー チューリップの〜♪

真理子 それチューリップじゃない！

北見 ♪はーるの、うらーらの♪ですよ

真理子 そう、それよ。(京香に) 可愛い顔しちゃって、歌えるのかしら？ それともイチャイチャしか出来ないのかしら？

京香 (カチンときて) じゃあ歌います… ♪はーるの、うらーらの すーみーだーがーわー♪

真理子、手元の契約書を破り捨てる。

真綾 えー……！

真理子 (自分の胸を叩いて) ここがこもってない。そんな人がやる照明で、この劇場が明るくなるかしらっ！

京香 明るくはなるでしょ。

真理子 お客さんが入ってくれるかしら！

京香 それは劇団側の話でしょ。

真理子 そもそも、明日、ここがオープンできるかしら！

京香 それはそつちの問題でしょ。オープンくらいしてくださいよ。

真理子 たたく、最近の若い子は、あー言えはイチャイチャね。

北見 もうイチャイチャしてないっすけど。

真理子 言つとくけど、別に羨ましくなんかないから。あたしみたいに婚約して破棄されちゃえばいいのにつ！

真綾 (小声で) されたんだ…

真理子 若人、あたしが見本を見せるから、ちゃんと聞いときなさい。

(軽く咳払いをして) ♪はーるの、うらーらの すーみーだーがーわー♪
♪千代に 八千代に〜 さぎれ〜いーしーのお〜♪
ちよ、ちよっと待って下さい。歌変わりましたよね？
え？
真理子
北見 途中から「君が代」になっただけど？
真理子
…

無言で、再び契約書を破く。

真綾 え—————！

真理子 本番、楽しみにしてるわ。(破いた契約書を返して) 契約書、書き直しといてね。

日吉 マジっすか…

真綾 (真理子に) あ、そう言えば、次に下見に来るって言う劇団の人が先に来てました。

真理子 次の劇団？

真綾 はい、あたしたちの次に来るんですよね？

真理子 あーそれがね、来られなくなっただんですって。電話があったわ。

真綾 はあ？

真理子 役者さんが交通事故にあつたらしくて、みんなで病院行くって。大丈夫ならいいけどね。じゃ。

真理子、出て行く。

日吉 事故…？
真綾 さつきの彼、そのこと知らないかも。教えてあげなきゃ。
北見 どうした？
日吉 いやさあ…

保土ヶ谷が出てくる。

日吉 あ、いた。ねえ保土ヶ谷さん、劇団員の人が事故にあつたらしいよ。
保土ヶ谷 …

北見と京香、保土ヶ谷が見えない。

北見 日吉、誰と話してるんだ？
日吉 え？
真綾 次の下見に来る劇団員の——
京香 誰もいないけど？
日吉 嘘だろ。
保土ヶ谷 僕は存在感がないんです。失礼します。

保土ヶ谷、出ていこうとする。

日吉　ちよつと待つてよ！

真綾　事故にあつたのつて、保土ヶ谷さんなんですか？

京香　真綾、どしたの？

真綾　あなた、このまま死ぬつもりなんでしょ！

保土ヶ谷　僕がいなくても、舞台は出来ますから。

日吉　じゃあなんでここに来た。舞台に未練があるからここに来たんじゃないのか。

保土ヶ谷　未練なんか、ないですよ。

日吉　でも嘘をついたよね？

保土ヶ谷　嘘なんて――

日吉　地蔵だの墓石だの、どう考えたつて主役じゃない。脇役だ、いや脇役以下だ。でもあんたは主役たつて言った。

保土ヶ谷　：

日吉　主役がやりたいんだろ。

保土ヶ谷　主役だなんて…でもせめて人間の役がやりたかつたな…

日吉　やらせてやる。

保土ヶ谷　え？

日吉　今の劇団辞めて、うちに来い。

保土ヶ谷　でも僕は下手ですよ。だから、あんな役しか――

真綾　うちの劇団員たつてみんな下手くそだよ。(北見たちに) だよね！

北見 あ、ああ。俺がやったほうが上手いんじゃないかねえかって思うほどだよ。

京香 でもみんな芝居は好きだよね。

真綾 そう。いいんだよ下手だつて。芝居が好きなら、それでいいんだよ。

保土ヶ谷 僕は… お芝居が好きです。

日吉 それでいいじゃないか。十分だよ。

保土ヶ谷 もつとお芝居が、したいです。

日吉 じゃあ、戻ってこい。だから、今から病院に行つて、生きろ！

保土ヶ谷

日吉 … 俺があんたの役を用意して待つてるからさ。

真綾 この劇場で、一緒にお芝居やりましょ。

保土ヶ谷 いいんですか？

日吉 もちろんだ。

真綾 もちろん。

二人、京香達を見る。

京香 (わけがわからず) も、もちろん。

北見 もちろん、待つてるよ。

保土ヶ谷、まじまじと劇場と客席を見つめる。

保土ヶ谷 この客席の人たちが、みんな僕を見てくれるような、そんな役がやりたいです。

日吉 任せておけ。

保土ヶ谷 帰ってきますすね。

日吉 ああ。

保土ヶ谷、静かに去っていく。

瞬間、

京香・北見

あつ！

同時に声を上げる。

真綾 どしたの？

北見 今、人の背中が見えた気がする。

京香 うん。

日吉 そうか。彼が保土ヶ谷君だ。俺達の新しい劇団員だよ。

音楽

真綾

さて、契約書き直さなきゃ…

日吉

北見、舞台セットなんだけどさあ——

京香

ねえ、ブース行こー

北見

よーし一緒に行こうか。

日吉

おい、お前らさあ…

真綾

(日吉に) あたしが聞いてあげる。

日吉

(照れて) いや、真綾には分からねえと思うけど…

北見

舞台は神聖なところだからな。

京香

イチャイチャすんなよっ！

そう言っつて、二人出ていく。

日吉

おい、おいコラ！

真綾

で？ 舞台セットが？

日吉

あ、ああ、あのさ、ここに扉付けてさ——

真綾

お盆持つて出てくるんでしょ。幅は広いほうがいいと思うよ。

日吉

だよな。

仲良く打ち合わせを始める二人。

京香（声） ちよつと暗転にするよー！

徐々に暗くなる舞台。

やがて、暗転。

了